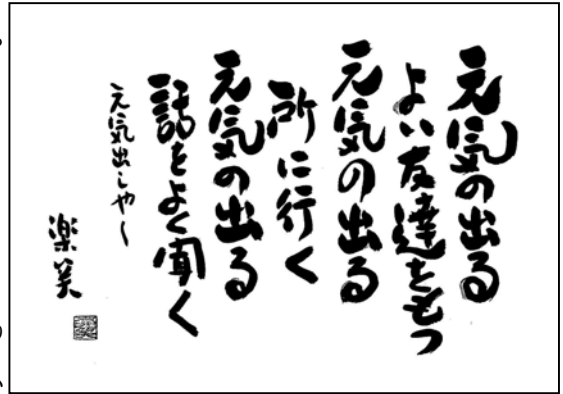


「元気の出るコツ」

1. 楽笑さんに学ぶ

右掲は、尊敬している楽笑さんの著書「笑てなはれや〜」の58頁に掲載されているものです。楽笑さんは、「元気の出る」という事で3つの事を大切に示唆されています。

まず、「元気の出るよい友達をもつ」とあります。確かに友達によって左右される部分があります。私は、「リズム」ということも重要と思っています。リズム感のよい方に会うと自分までリズム感が良くなるように思います。このリズム



という点が友達を選ぶ時の重要なキーだと思っています。これは、仕事においても同じであり、所属する職場や上司のリズム感が大きく影響を与えるのです。私の経験では、トヨタ系ディーラーに約20年勤務していたのですが、その後、関連会社の情報関係の会社に次長として移ったのですが、この会社のリズム感が全く合わずに「こんな会社にいたら自分が腐る」という思いが強まって、船井総研でコンサルの勉強して、独立したという経験があります。サラリーマンという安定した身分よりも自分らしさという点に生き甲斐を見出そうとしたのです。それから14年経過しています。(平成21年7月現在)

次に、「元気の出る所へ行く」とあります。これも重要な事と思います。訪問した所が元気のない会社とすれば、自ずと「景気が悪いですね・・・」という会話が波長を合わせることになってしまうのです。この波長を合わせてしまう事がマズイのです。私は、こういう場合、「ところで、ご近所や同業者で元気のあるところはありませんか？」と話題を振るようにしています。「景気が悪い」という話でキズの舐めあいをするよりも、他社などの「景気のよい話」をする方が前向きになれるので良いと考えています。

最後に、「元気の出る話をよく聞く」とあります。この「元気の出る」という事は「前向き」であるという事も含まれているので、実際に、自分でも実践できるような具体例があるので聞き逃さないことがポイントになるのです。また、「よく聞く」という意味は、自分が腑に落ちるまで聞くという事なので、大いに質問して疑問点を残さないようにしておく事が大きなポイントになるのです。

2. 「元気の3条件」

一口に「元気が出る」と言ってもTPOによって変わってくると言えます。しかし、他人に求める場合でも、まず、自分が元気な人であることが重要なのです。

「類は友を呼ぶ」と言うように、元気な人には、元気のない人は波長が合わない

ので困るのです。従って、できるだけ元気な方がよい訳ですが、最低限「自立」

3つの自立

1. 経済的
2. 健康的
3. 精神的

している事が条件になります。すなわち、経済的・健康的・精神的自立の三本柱が重要なのです。これらの内、どれか一つでも欠けると自立と言えない状態になるのです。まず、「経済的自立」は非常に重要なポイントです。俗にいう「儲ける」という話ですが、コンスタントな収入が確保されており、経済的な基盤が安定していることが双方に「ゆとり」を生み出すのです。どんな方でも「経済的な不安」を抱えていると表情にも出て来るので、マイナスのオーラを発することになってしまうのです。ビート武さんは、師匠から「儲かっていなくても上着だけは張り込め」と教

えられたそうです。財布の中味は見えないので、見える上着に金をかけて、飲食などを控えるように教えられたそうです。ともかく、卑屈にならない程度に金銭的な余裕を持つ必要があります。

次に、「健康的な自立」です。これは、言わずもがなという感じがします。健康でないと活動も鈍ってくるのです。極端な話、病院に入院していると身動きがとれないのです。最後の「精神的な自立」という面では、「不安」すなわちクレームなどを抱えていないことも重要です。

3. 「元氣の出るコツ6つ」

右掲は、あるセミナーの基調講演をされた経済ジャーナリストの上妻英夫さんが「元氣の出るコツ」として6つ上げておられたものです。楽笑さんの「元氣の出る〇〇」(人・場所・話)を最初にご紹介していますが、そもそも「元氣の出るコツ」というものを考えて見る必要があるのです。「3つの自立」の条件が整っておれば、このコツを身につけたいのです。

まず、最初の「ちょっと変えるクセをつける」というのは、非常に大事な事と思います。「ちょっと変える」という事で、創意工夫が始まるのです。いつものように、いつもの通り作業するのでは、進歩がないのです。恐ろしい「マンネリ」が身についてしまいます。お客様にアイデア・ノートの携行をお薦めしています。思わぬ所でアイデアが浮かびますが、書き留めておかないとすぐに消えてしまいます。ちょっとキーワードでも書き留めておく事から創意工夫が始まります。

次の「人に会って喋る」も非常に重要ですね。会話をすることでエネルギーを発散するのですが、明るい陽気になれる話題が良いですね。「会って」も重要な事で「足まめ」になりますが、私は、電話も「口まめ」で重要な役割を果たすと思います。あまり長話になるようでは、相手の都合もあるので注意する必要がありますが、「足まめ」と「口まめ」をミックスするのが最近の事情と思います。

3つ目の「好きなことをして、人と比べない」も重要です。「好きな事」ですから、多くの場合、得意な事でもあると思います。得意なことをしていると楽しいとも言えます。私は、楽しいことをしておれば、余計な比較は無用と思っています。特に、金銭に絡む話は、「足りるを知る」で良いと思っています。「色即是空、空即是色」という言葉がありますが、難しい解釈は別にして、全ては心の持ちようが変わるといふもので絶対というものはないので。自分の気持ちやどうであるかがポイントなのです。「好きな事」=「仕事」⇒「趣味」という構図でよいと思っています。

次は、「人と関わって、相手を元気づける」です。ポイントは、相手を思ってかける言葉、すなわち、「愛語回天」という事が重要だと思います。元気づけるとありますが「示唆」が重要です。決して「教唆」ではないのです。「人は9割暗示で動く」と言うように、「暗示」にかけるように話す必要があるのです。「君ならできる」と言うよりも「〇〇さんで、うまく行っている」という風な方がより深く琴線にふれるようです。

5番目の「心を動かして、ドンドン動く」と言うのも重要です。60才になったので、ますます、感動する範囲が狭まって行くように思います。無理やりでも感動するように仕向けて、自分の心を流動化させる必要があります。興味が湧くというものがドンドン減って行くのではなく、若い人に手伝ってもらいながら新しいものにチャレンジしたいと思っています。

最後の「大事なことは第三者に言うように仕掛ける」は異論があるかも知れませんが、しかし、何もかも自分でする必要がないのです。立場を上手に利用すれば、自分に変わって大事な

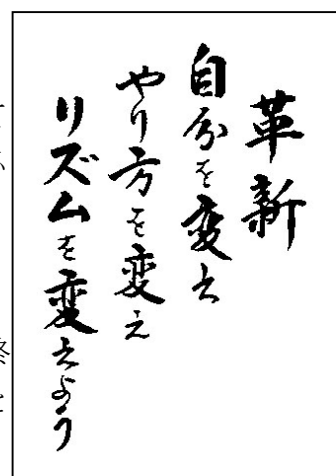
「元氣の出るコツ6つ」(by 上妻英夫)

- ・ちょっと変えるクセをつける
- ・人に会って喋る
- ・好きなことをして、人と比べない
- ・人と関わって、相手を元気づける
- ・心を動かして、ドンドン動く
- ・大事なことは第三者に言うように仕掛ける

事をしてもらえる、あるいは、言ってもらえるのです。このように、第三者に間接的に言ってもらう方が効果が大きい場合もあります。しかし、まずい状況の時は、この方法は火に油を注ぐ事になるので、自分でする事が肝心です。

4. 「元気の出し方」＝「継続は力なり」

右掲は、今までにもご紹介していますタナベ経営さんの「革新」という「訓」です。前項の基本的な3つの自立(経済・健康・精神)が充たされているという前提ですが、やはり、他人から「元気の出る人」と評判される必要がありますので、6つのコツを上手に取り入れて自分を変える必要があるのです。この時、タナベ経営さんが、示唆するように、「やり方」と「リズム」を変えることによって、他人から見て「自分」がハッキリ変わったと認識されるのです。この事は、非常に重要です。意外に「思い」だけで終る方が多いのです。これでは、長続きしないのです。同時に、「やり方」と「リズム」を変えることがポイントなのです。



成功の方程式

心が変われば、行動が変わる
行動が変われば、習慣が変わる
習慣が変われば、人格が変わる
人格が変われば、天命が変わる

右掲は、「成功の方程式」と勝手に名づけているものです。この「訓」は、もう16年も前にお客様の会議室に掲示してあったものです。お客様は、松下幸之助さんからの贈り物とおっしゃっていました。「変える」と言っても「継続は力なり」なのです。心で思ったことを行動に移してタナベさんの「訓」のように「やり方」や「リズム」も一緒に変えても、それを習慣化する必要があるのです。この「習慣」になることで「人格」すなわち「評判」が変り、新しいブランドになって行くのです。ブランドになれば「運命」も変えることが可能なのです。

私は、お客様に「元気が出る」というテーマでお話をするのですが、「楽笑さん」も「3つの自立」も「元気の出る6つのコツ」も、いずれも重要な要素なのですが、それらを推進するのはタナベさんの「革新」と「成功の方程式」がキーポイントと話しています。すぐに、結果を求める風潮があるのですが、そういうイージーな事ではなく、粘り強くPDCAサイクルを回すことをアドバイスしています。その実践のポイントは、現場のDoを根気よくヒアリングするマネジメントであり、Doの結果に対して「コーチング」(OJT)を行い一体感ある指導をすることが重要だとお話しています。この辺が難しく、ヒアリングもせずに「日報」だけで済ませて、コーチングやOJTは皆無で「結果」ばかりに終始している現場が多いのです。折角の現場のDo(行動)を支援する体制が重要なのです。そういう風土になるまで、結構、時間とエネルギーが必要になります。これが出来てこそ「天命」が変わると言えるのです。

【まとめ】

1. 「元気が出る」友達、場所、会話。
2. 「経済的・健康的・精神的な自立」・不安を抱えないようにする
3. 「元気が出るコツ6つ」
4. タナベさんの「革新」x「成功の方程式」で「継続は力なり」を実証する

【AMIニュースのバックログは <http://www.web-ami.com/siryoo.html> でご覧になれます！】